

水道だより

通水90周年記念号

ウォーターニュースあまがさき



発行:尼崎市水道局

第40号/平成20年10月

〒660-0051 尼崎市東七松町2丁目4-16 TEL:6489-7402 FAX:6489-7403 ホームページ <http://www.suidou.amagasaki.hyogo.jp/>

おかげさまで水道通水90周年 これからも安全・安心な水道水をお届けします

水道通水90周年を迎えて

尼崎の水道事業の起こりは、明治後期の尼崎町時代に水道布設計画策定の調査に始まります。しかし事業費が余りにも巨額であったため、国庫補助を受けるためにまず市制施行を行う必要がありました。そして大正5年4月1日に尼崎市が誕生し、同年6月の市議会において、水道布設に関する議案が即日可決され、2年後の大正7年10月1日に神崎川を水源として尼崎市の水道が通水しました。

その後、水道の水源を神崎川から淀川に変更し自己水源の基礎を固めるとともに、工業生産の急速な拡大と市勢の急速な伸展のもとで水道の需要は飛躍的に高まりました。

戦前戦後を通じた産業発展とともに、水道水の安定供給を確保するため、これまで7期にわたる拡張事業を行ってきました。

今後も地震などの災害に強く、安全・安心な水道の構築を目指します。



尼崎市長
白井 文

尼崎市の水道事業は、本年10月1日をもちまして通水90周年を迎えます。これは市制施行2年後のことであり、巨額の費用を要する事業であるにもかかわらず、これほど早期に布設したことは、いかに当時の市民の期待が大きかったのかがうかがえます。

その後、人口がピークに達する昭和45年に水道普及率が100%に達し、また、かねてよりご指摘が多かった水質の改善にも努め、平成12年4月には市内各世帯への高度浄水処理水の供給が実現いたしました。

これからも市民の皆様にご信頼され、安全で安心な水道水を供給してまいります。



尼崎市議会議長
塚田 晃

私たちの命を支える水道が、通水90周年を迎えました。良質な井戸水に恵まれない尼崎にとって、水道はまさに命綱です。水道のなかった時代は飲料水として河川水を利用する人が多かったために伝染病の流行により、命を落とす人もおられたと聞いております。現在の私たちが安心して水を利用できるのも、水道のお陰と言えます。

改めて、水道を守るためにご努力いただいた皆さんに心から感謝申し上げますとともに、今後も市販のミネラルウォーターに負けない、おいしく安全な水を尼崎市民に提供していただけるようお願い申し上げます。



●南城内東部(前面空地は鉄道院貯炭所)



●尼崎港



●築地町北東部

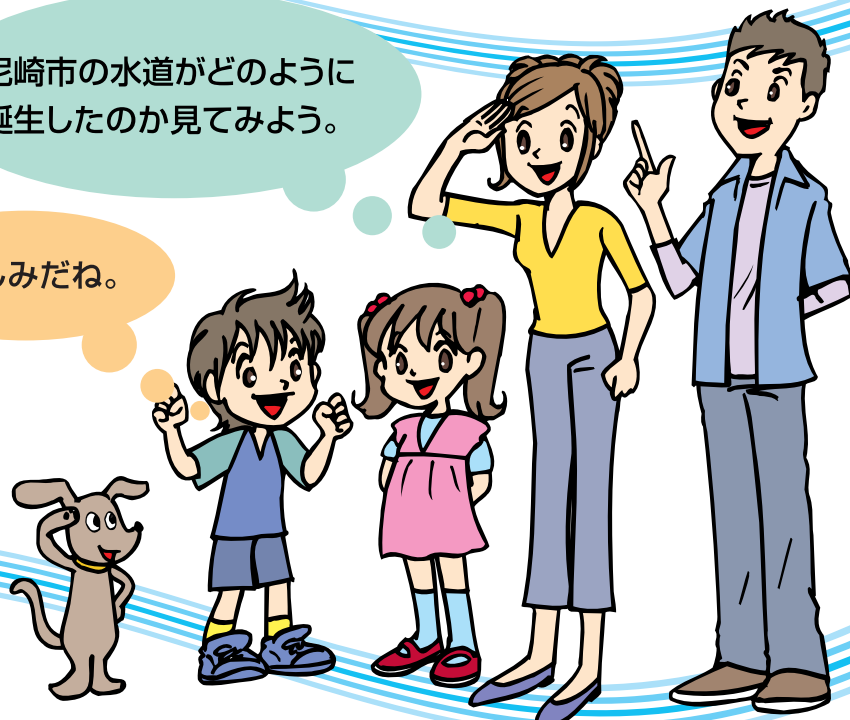


●神崎水源地(現神崎浄水場)建設前

当時の尼崎市の様子

尼崎市の水道がどのように誕生したのか見てみよう。

楽しみだね。



写真提供:尼崎市立地域研究史料館
出典:「御大典記念献上 尼崎市写真帖」

中面もご覧ください

水道創設前

水道がなかった時代、人々は、井戸水や河川水を飲用や炊事に使っていました。しかし、尼崎では飲用に適した井戸はごくわずかしかなく、不良井戸水や河川水は伝染病流行の原因となりました。

明治時代に全国的な流行と時期を同じくして尼崎でもコレラが発生しました。その後も人口の増加に伴って赤痢や腸チフスなどの水系伝染病が流行し、近代工業化を目指す尼崎では公衆衛生の改善が急務とされました。

一方、明治7年に大阪神戸間を結び官設鉄道が開通して以来、阪鶴鉄道（JR福知山線）、阪神電気鉄道、阪神急行電鉄（阪急電鉄）、阪神国道（国道2号）など、主要交通網が次々と整備され、工場の進出、人口の集中によってますます水道の必要性が高まりました。



●神崎水源地（現神崎浄水場）工事風景



当時の尼崎市の様子

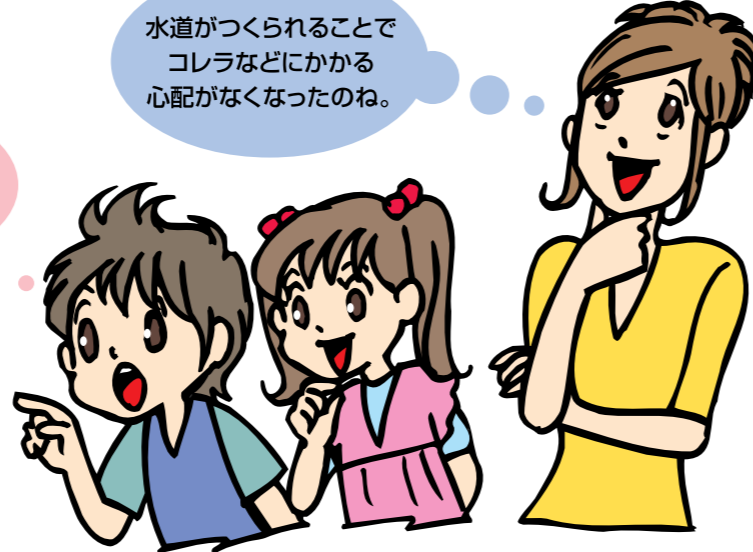
●南城内の国鉄尼崎駅（後の尼崎港駅、昭和59年廃止）

写真提供：尼崎市立地域研究史料館
出典：「御大典記念献上 尼崎市写真帖」

●阪神電気鉄道株式会社（北城内）発電所（右）と車庫（奥）

男の人も女の人も
総出て工事を
していたんだね。

水道がつくれることで
コレラなどにかかる
心配がなくなったのね。

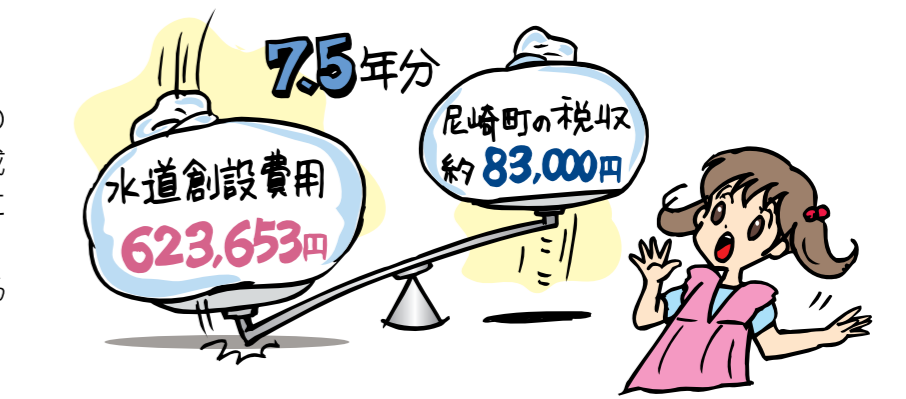


90年のあゆみ

市勢の伸展とともに給水需要は急増し、新たな水源を求めて昭和11年に設立された阪神上水道市町村組合（現阪神水道企業団）に加入し、その後、数次にわたる施設拡張を経て、昭和52年には自己水源8万6,000m³と、阪神水道企業団からの受水25万4,000m³を合わせて、日量34万m³の給水能力を有する上水道に整備されました。

写真でみる尼崎の水道90年

大正5年	大正7年	昭和3年	昭和11年	昭和16年	昭和17年	昭和21年	昭和22年	昭和24年	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和32年	昭和36年	昭和38年	昭和39年	昭和41年	昭和43年	昭和48年	昭和50年	昭和59年	昭和60年	平成4年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成12年	平成13年	平成15年	平成17年
【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	
【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	
【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	【水道事業のスタート】 【社会の発展】	



水道創設

ついに大正7年10月1日、尼崎市に水道が通水しました。市中は待望の水道が完成したことを記念し、ちょうちんをつるし花火を上げてその完成を祝ったと言われています。全国的には35番目、兵庫県下では神戸市に次ぐ水道の誕生でした。

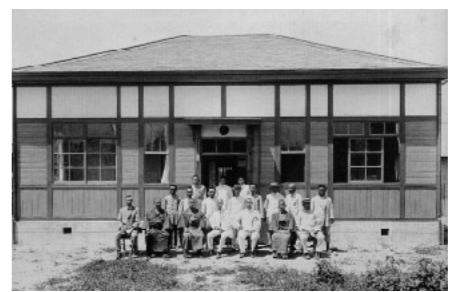
当時の給水戸数は、2,353戸で総戸数7,313戸に対し普及率は32%程度で、1日の最大給水量は3,750m³でした。



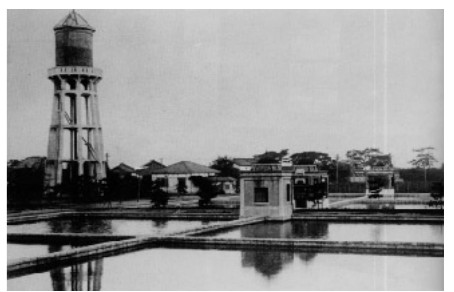
●神崎水源地（現神崎浄水場）建設工事



●集水管の布設



●神崎水源地事務所

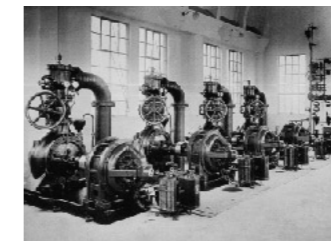


●完成した神崎水源地（ろ過池増設後）

水源の変更

水道の普及率は5年後の大正12年に76%まで向上しましたが、当時の水源である神崎川からの取水が水質汚染によって限界となり、「尼崎市百年の大計」として淀川から取水する方針が決定されました。

尼崎市の水需要が1日の猶予も許さない状況のもとで、2年の歳月をかけた工事は昼夜兼行で行われ、昭和3年4月に尼崎市から約9km離れた大阪市東淀川区東淡路の柴島（くじま）取水場が完成し、水量豊かな淀川からの自己水源を確保しました。



●柴島取水場の導水ポンプ

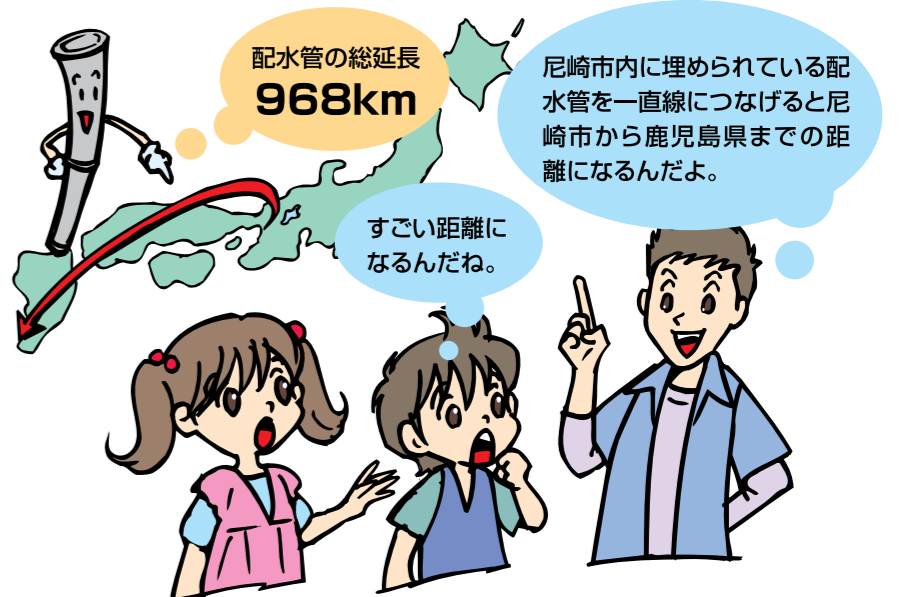
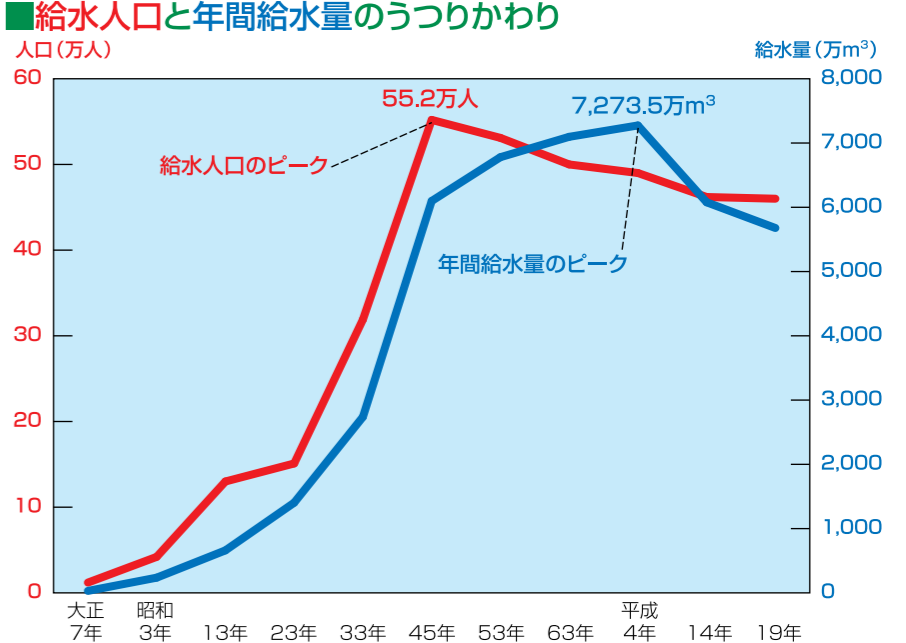


●柴島取水栓

●●●●●木 管●●●●●
 当時の水道料金は私費で設置された共用栓だと1戸5人までで月35銭。公費設置だと月20銭とされていたんだよ。ちなみにお米1升は45銭くらいだったんだ。
 尼崎市の水道創設工事の際、第一次世界大戦（大正3年～7年）の影響で鉄鋼価格が急騰し、水道管（鑄鉄管）の価格も大正5年に1トン95円であったものが翌年には360円と急騰しました。
 水道の諸資材の暴騰により、水道布設計画を中断する都市もありましたが、尼崎市の窮乏した水事情はこれを許すような状況でなく、やむを得ないとして市議会で木管の使用が可決されました。
 水道創設に一役買った木管ですが、漏水が多かったため、その後の配水管増設工事ですべて鑄鉄管に布設替えされ、その役割を終えました。



●昭和63年2月 西川ツブリ池地先において出土



いつでも安心、おいしく安全 尼崎の水道

尼崎市の水道普及率が100%になった昭和45年ごろから水源である琵琶湖のかび臭が問題となりました。そこで、水質試験車の導入や昭和48年には神崎浄水場にオゾン注入設備を完成させるなど、安心してお使いいただけるよう水質の向上に努めました。

平成7年には阪神・淡路大震災で水道施設が甚大な被害を受けましたが、市民の皆様や水道業者の方々のご協力と、他市町からの応援などにより復旧することができました。その後、平成10年には神崎浄水場に高度浄水処理施設が完成し、安全でおいしい「高度浄水処理水」をご家庭までお届けできるようになりました。また、水道局では平成15年に環境ISOと呼ばれるISO14001の認証を取得し、環境に優しい水道事業を目指しています。



●阪神・淡路大震災における武庫支所での応急給水



●ISO14001登録証

さらに、皆様にきめ細かなサービスをご提供するために、平成15年からは「水道局電話受付センター」を開設し、土・日・祝日もお申込みやお問い合わせいただくことができるようになりました。

尼崎市水道局では、いつでも、いつまでも安全で安心してお使いいただける水道水を皆様にお届けし続けます。



●高度浄水処理棟



●オゾン発生装置



●水質試験

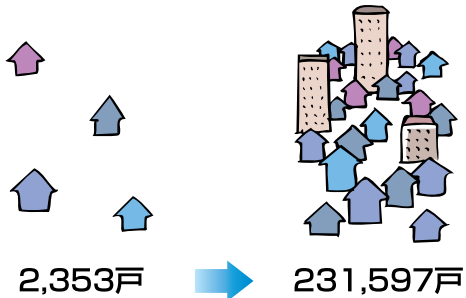


●配水管布設工事

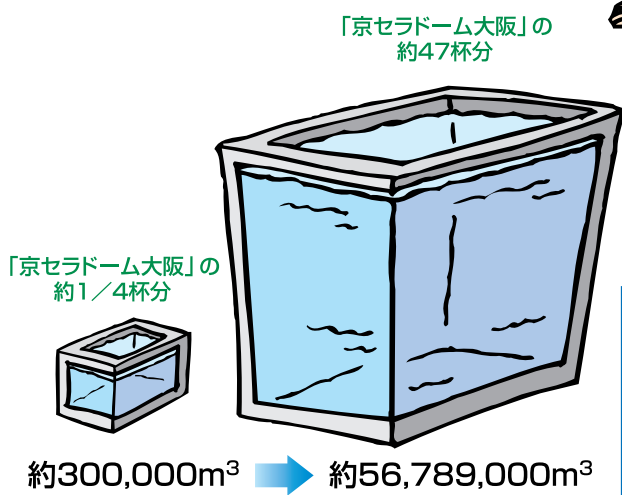
くらべてみよう 水道のいま・むかし

大正7年の創設時と平成20年3月末のデータを比較してみました。

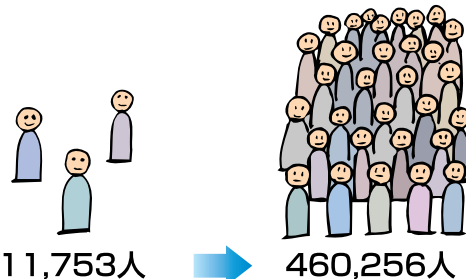
給水戸数



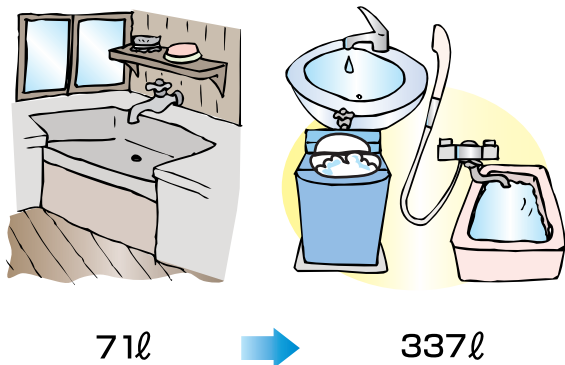
年間給水量



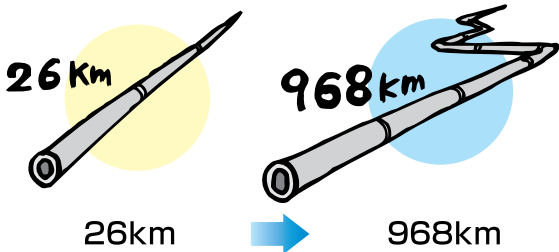
給水人口



1人あたりの給水量(1日)



配水管の距離



健康のために水を飲もう!



悪質な訪問販売にご注意ください!

水道局職員を装ったり、水道局から依頼されたように偽り、「メーター横の給水管が錆びており交換する」「500円で給水管を点検する」「浄水器が必要」などと言って、金銭を支払う被害が生じています。水道局では次のようなことは一切しておりません。くれぐれもご注意ください!

- お客様からご依頼のない修繕
- お客様からご依頼のない水質検査
- 給水管の洗浄
- 浄水器やじゃ口など水道器具の販売・あっせん



切り取って保存してください。

- 水道の使用開始・中止のお申込み
- 口座振替手続きのお問い合わせ
- お客様名義の変更のお届け
- 水道に関するお問い合わせ
- 故障修繕のお申込み

水道局電話受付センター

受付日時 毎日 午前8時45分～午後5時30分
※年末年始(12月29日～1月3日)は、受け付けていません

電話 06-6375-0002

土・日・祝もOK!

FAX 06-6375-0124

夜間・年末年始は水道局警備室へ 電話 06-6489-7400